

荒木あけみ



函館市議会議員 荒木あけみニュースレター 第28号/2026年1月/発行責任者 佐々木真実(内部討議資料)

1月25日(日)、荒木あけみと語る会を開きます。

お時間がございましたら、ぜひお出かけください！(最終ページをご覧ください)

2026年、この一年も「提案」「指摘」し、「結果」を求めていきます！

新しい年を迎える。荒木あけみ、函館市議3期目の任期も最後の1年となりました。昨年も年4回の定例会で毎回一般質問を行いました。中でも、函館市の財政について取り上げることが多かったです。市の財政状況が回復して、落ち着いた市民生活、そして必要な事業を実施できるようになることを祈るとともに行動いたします。この1年も、市民の声を届ける役目をしっかりと果たしてまいります。

新年のご挨拶ができません。 公職選挙法により、議員は年賀状、寒中見舞等の挨拶状が禁じられております

姉妹都市の視察（韓国・高陽市）

函館—仁川直行便就航に感謝する意味で、韓国へ行ってきました。チェジュ航空を使って来函されるゴルフのお客様が落ち着いた11月中旬のことです。私的旅行ですが、せっかくなので函館市の姉妹都市、高陽市(コヤンシ)を一目みたいと思い、伝手※を頼ったところ、高陽市役所を訪問できることに。国際課、議会担当、秘書課、スマートテック、通訳の方(市職員で日本留学経験有)、と多くの方のお世話になりました。高陽市は人口106万人(年々増加中)、268km²、ソウルに隣接したベッドタウン。11万件のビジネスが存在し、40万人近い就業者が居住。学校356ヶ所、病院1,273軒、公共図書館19施設。スマートシティを進めており、その施設見学もさせてもらいました。韓国はIT先進国ですが、ここまでデ

ジタル社会が進んでいるのか…と感心しました。他都市のスマートシティと比べて、高陽市の強みは?という問には、市民生活での課題解決に焦点を当てていること、特にスマートセーフティセンターのデータ・分析を通じて市民の「安心・安全」に力を入れている、とのことでその現場も

見せてもらいました(以前、函館市議会で提案したセーフ・コミュニティのデジタル版のよう)。来年は高陽市との姉妹都市提携15周年。国内視察だけでなく、姉妹都市視察から多くの学びがありました。



高陽市議会議場



スマートセーフティセンター



高陽市役所前

※渡韓及び高陽市との調整では、ヒンナの申東煥さん、澤田さおりさんにお世話になりました。

令和7年第3回(9月)、第4回(12月) 市議会定例会の一般質問より

以下は、一般質問の意図・内容をまとめたものです。詳細は、動画でご覧ください。
(Youtubeの「函館市議会」チャンネルでは全議員の質問を動画で見られます)



[令和7年9月17日(水) 10~11時 以下①~③]

① 持続可能な財政運営に向けた全庁的取組について

函館市の財政状況が悪いと強く感じたのは一昨年(令和6年)11月に公表された「今後の財政の見通し」がきっかけ。現在、そしてこれから市民生活を守るには財務部だけでなく全庁的に持続可能な財政運営に取り組むべきと感じて質問した。「今後の財政の見通し」では、令和8年度に約29億円の収支不足が生じることが示されたが、10か月後(令和7年9月)である本質問では、収支不足額がさらに悪化との答弁。この29億円に対して、行財政改革としてあらゆる対策を行っても捻出できるのは16億円で、13億円が不足となる(29億円 - 16億円 = 13億円)。その収支不足を基金(家計でいう貯金)を繰り入れることで対応する計画だが、基金は非常時の備えであり、平常時の収支不足の補填に常態化するの問題。基金残高は今後減少見込みで、市は既存事業の見直しや自主財源確保が必要との認識を示した一方、直近3年間で新規事業(費用)は増加している実態も明らかになった(詳細は右頁下をお読みください)。基金頼みの財政運営は延命策に過ぎず、事業の優先順位付け、公共施設の再編、分かりやすい財政指標の共有を通じて全庁的に財政課題を自分事と捉える必要があると指摘した。



② 観光都市にふさわしい交通環境整備と交通安全対策について

函館は道幅の狭さ、複雑な交差点、一方通行、市電が走る特有の交通環境など、土地勘のない移住者・観光客にとって分かりにくい道路構造を多く抱えている。白線や横断歩道など路面標示の劣化、インバウンド増による外国人ドライバー増が安全面での不安につながるという問題意識から質問した。外国人ドライバーによる市内の事故は過去3年で27件、警察や関係機関と連携した多言語での啓発を進めていることが答弁された。件数自体は多くないものの、ルールや標識の違いなどから国内観光地周辺ではインバウンドによる交通事故、死亡事故が散見されていること、雪道に不慣れなため冬場は事故件数が増加することから早期の対策が重要。観光地周辺の安全対策は函館への信頼そのものであり、市民と観光客の双方が安心できる交通環境づくりを道と連携しながら進めるべきと述べた。



外国人ドライバーによる道内の死亡事故を含む交通事故(令和7年8~9月、荒木がインターネット検索で確認したもののみ)

8月9日 レンタカーとトラック衝突(弟子屈町)、8月11日 レンタカーと軽乗用車衝突(新得町)

9月7日 レンタカー単独事故(美瑛町)、9月(日にち不明) レンタカーと乗用車衝突(長沼町)

③ 幼保小連携・接続の進捗状況について

昨年6月議会で取り上げた本件について、その進捗を質問した。幼保小連携推進協議会や連絡会議の開催状況、研修成果の学校現場への波及、スタートカリキュラムの改善状況、入学説明会資料の統一、引き継ぎ書類の見直し、アプローチカリキュラム・小学校接続加算の状況、架け橋プログラムの進捗など多角的に確認した。答弁では、協議会へのほぼ全校参加やハンドブック作成、入学説明会資料の統一などの前進が示された一方、園と学校の協働や取組の浸透度には差があり、連携は十分とはいえない現状も明らかになった。フェーズ2へ進んだ学校があるものの進捗の遅い学校へのフォローが課題。研修成果が現場でどう展開されているのかを検証し、人事異動に左右されない統一的な連携システムの構築が重要と指摘した。市全体で質を担保し、どの学校でも安心して小学校生活を始められる環境づくりを求めた。



[令和7年12月11日(木)15時30分~16時30分 以下①~③]

① 函館市地域交流まちづくりセンターの利用について



未広町にある地域交流まちづくりセンターは、市民活動を支援し、交流の場を提供する拠点である。前の指定管理者時代と比べて利用しづらくなったという市民の声をきっかけに、市民・管理者双方の話を聞き、実際の運用と市民の受け止めにギャップがあることが分かり質問した。貸室の利用区分、駐車場有料化の適正運用、営利目的とする判断基準などを質したところ、市・管理者間で協議するとの答弁であった。条例の一部改正が必要ではという指摘に対しては現時点で見直す考えはないという。条例上のルールや規約を守ることは当然としつつも、利用者・管理者双方が改善を望んでいることに対して、多様化する市民のニーズや活動の実状に応じたより柔軟な運用が必要であり検討してほしいことを述べた。



② 全ての子どもが安心して過ごせる居場所について

家庭環境や経済状況など様々な困難を抱える子どもが増える中で「どの子どもも安心して過ごせる居場所」が充足しているのか、という問題意識から質問した。児童館や学童保育に加えて新たに商業施設内で始まつた子どもの居場所への取組の成果と課題を確認した。また、家庭での生活習慣が身についておらず生活リズムや対人関係に影響を受けている行政の制度の枠外・どの機関にもつながっていない子どもへの支援、及び国の児童育成支援拠点事業の利用について市の認識を問うた。市は、制度につながらない子どもがいることは課題と認識し、児童育成支援拠点事業は意義ある制度だが人材確保や財政面で課題があり、実現可能性を含めて調査・研究するとの答弁。民間団体の活動を含め、今ある地域の力をどう持続可能な形で支えていくのかが将来の市の負担軽減にもつながる重要な視点だと指摘した。



③ 財政の持続可能性確保と事業再構築への取組について



近年、全国各地で自治体の財政悪化が報じられており、函館市も例外ではない。財政力指数が中核市で最下位なのは、その厳しさを象徴する一つの結果に過ぎず、荒木の懸念は市の財政が長期的に持続しなくなること。現状、二つの危惧があり、一つは問題が先送りされ、ある日突然「急激なサービス縮小」や「大幅な負担増」として市民生活に跳ね返ってくること。もう一つは、財政悪化の理由を物価高騰、エネルギー価格の高止まり等の外部要因を挙げていること。真の原因是、過去の事業見直しの先送り、基金への依存など行政の習慣では。財政は「収入の範囲内で支出する」ことが原則であることを確認し、そのために何をするのかを質した(財務部や総務部だけでなく、全部局が自分事として受け止め、行動に移せる体制なのが重要)。答弁では、各部局が主体的に事業を検証し選択と集中を進める考えが示された。財政改善を全庁的に進めるには、市長のリーダーシップ(強いメッセージと一貫した判断)が重要。市民と現状を共有し、将来への道筋を示すことこそ今最も求められていると考える。市長からは、早期かつ的確な意志決定の重要性と、市民と財政状況を共有する必要性が語られた。

函館市の財政悪化～議会質問から見た課題

直近3年間で廃止・縮小した事業=370件、約6億円の削減

〃 新規・拡充した事業=166件、約16億円の増加
→ 差額10億円の財源は、ふるさと納税寄付金等

財政状況が悪く、人口減少が進む中、事業規模が拡張しているのは疑問。ふるさと納税はやってみないと分からないので財源として当てるのは危険じゃないかな？



昨年、映画「名探偵コナン」で103億円の経済効果が試算された
だが市税全体では3億円の減収(定額減税など税制改正などの影響)
→ 単発イベントで税収増を見込むのは難しい(他要素の影響が大きい)



収入に過度な期待ができない以上、収入=支出になるよう支出を見直すことで市の財政状況を改善するのが堅実だと思います！

荒木あけみと語る会

日時：2026年1月25日(日)10時半～11時50分

会場：サン・リフレ函館(大森町2-14)

申込不要、参加無料、入退室自由

荒木あけみからの議員活動報告、皆様からご質問・ご意見をいただく会です



出来上がった築山で、ソリ遊びを楽しむ子どもたち

「荒木あけみと語る会」でいただいたご意見から、新川公園に築山ができました！

片道30分かけて別の公園まで歩いて行っていたのが、近くでソリ遊びができるようになったこと。山の高さも斜面の向

きも希望通りだったこと。ご意見をくださった学童の先生に大変喜んでいただけました。子どもたちが冬休みに元気よく遊ぶ姿を見てることができて、荒木も大変嬉しかったです。このように、語る会では荒木あけみからの報告の他に、皆様からいただいたご意見、ご要望などを市に伝え、実現や改善したこともあります。今回は、これまでの1時間から拡張しました。日頃お感じのことなどをどうぞお話にいらしてください。

荒木あけみ 新春の集い

日時：2026年1月31日(土) 18時30分～

会場：湯元啄木亭（湯川町1丁目18-15）

食事・飲み放題、温泉入浴付(入浴後の控室有)、会費7千円

参加ご希望の方は、下記までご連絡ください

(電話:090-5070-8595(佐々木) メール:aarakinet@gmail.com)

昨年の様子



ニュースレターの封入作業をお手伝いいただける方

未来へつなぐ荒木あけみネットでは、年2回ニュースレターを発行しております。発送前には一部ずつ透明の封筒に入れる封入・封緘作業があります。お手伝いできるという方がいらっしゃいましたら、下記までご連絡ください。次回は2026年7月上旬予定です。

FAX: 0138-76-3321 E-mail: info@arakiakemi.jp



市政へのご意見、ニュースレター送付先変更などのご連絡は…

未来へつなぐ荒木あけみネット（荒木あけみ後援会）

所在地：〒040-0035 函館市松風町17-10 FAX: 0138-76-3321 E-mail: info@arakiakemi.jp

Instagram araki.akemi



facebook 未来へつなぐ荒木あけみネット



X (旧twitter)
荒木あけみ【函館市議会議員】



荒木あけみ公式ホームページ
<https://www.arakiakemi.jp/>

